

し」というのが、伊勢、鳥羽（三重県）、伊豆（静岡県）の船乗りの言葉だという。また《ねはん》吹雪の伝承は愛知県にもあるという。同じく田口¹⁰⁾によると近江（滋賀県）では《比良八講は荒れじまい》があるという。

伝承に関係なく、このほかにもシンギュラリティーがあるかもしれない、年間を通じて、太陰曆におき変えた天気その他も調査しておくならば、あるいは長期予報の参考になるかもしれない。

広島地方気象台予報課長藤本成男氏からは歳事記の他からの伝承をご指摘いただき、また本文をご一読いただいた。記して感謝を申し上げる。

参考文献

1) 吉持昭, 1960: 太陰曆 3月15日東の天気について

て, 天気, 7, 142~145.

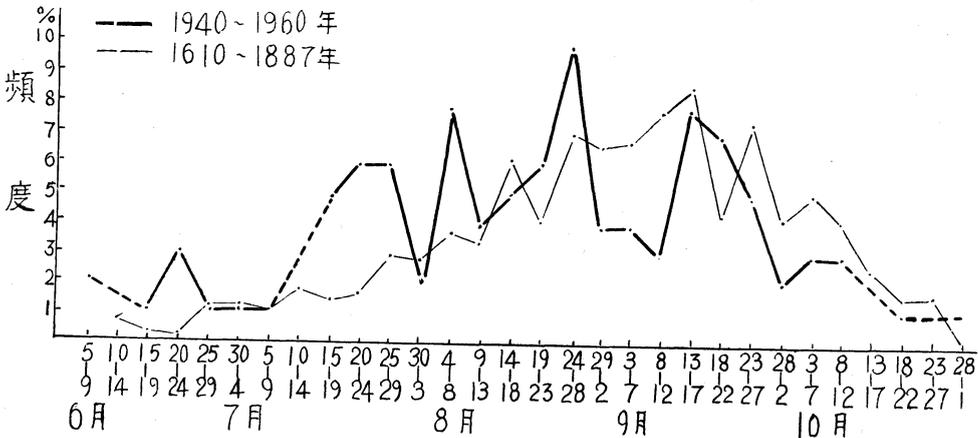
2) 岡田武松, 1933: 測候鎖談. 鉄塔書院. p. 236.
 3) 田口克敏, 1959: 気象のことわざ. 関西気象協会. p. 85.
 4) 殿村清人, 1956: 11月3日の天気について. 天気, 3, 195~196, 223~227.
 5) 高橋浩一郎, 1955: 動気候学. 岩波書店. p. 62.
 6) 世界大百科事典, 1959: 平凡社. 18, p. 167.
 7) 田口克敏, 1959: 気象のことわざ. 関西気象協会. p. 89.
 8) 田口克敏, 1959: 気象のことわざ. 関西気象協会. p. 86.
 9) 田口克敏, 1959: 気象のことわざ. 関西気象協会. p. 93.
 10) 田口克敏, 1959: 気象のことわざ. 関西気象協会. p. 94.

台風上陸の時期

藤井幸雄

日本に台風が襲来する最も多い時期は210日がよく知られている。日本気象資料より1610~1887年の半旬別台風襲来数を高橋（浩）博士が調べられており台風の来やすい時期として7月25日、8月16日、8月26日、9月15日、9月25日頃があげられている。これと最近21年間1940~1960年の上陸（九州~北海道）した台風（弱い熱低を含む）を半旬ごとに、頻度で示した。1887年までは6月より徐々に多くなり、9月15日頃を頂点として10月に少なくなっている。最近21年間では頻度変化の較差が大きく、7月27日、8月6日、8月26日、9月15日頃に台風が来やすいようである。即ち205日頃が最も多

く、次が225日と185日頃と云える。前者とは最高の時期が、9月15日頃より8月26日頃に移っていること、9月の2つの頂点が9月15日頃に集まっていることが大きな違いである。1940年以後における台風上陸日のシンギュラリティを調べたが、非常にバラツキが多く特に集中した日はないが、7月15日、8月7、25、27日、9月26日にそれぞれ3個づつ上陸しており、7月29日は4個も上陸し特異日と云えよう。このうち3個は980mb以下で九州の南部に、あとの1個は紀伊半島に上陸している。1961年には225日にあたる9月16日に第2室戸台風が上陸し近畿地方に大被害をあたえた。



襲来 (1610-1887年 556個) 上陸 (1940-1960年 102個) の頻度図